11 手話推進の施策に関する質問

問23 現在、沖縄県が取り組んでいる手話の普及に関する施策のことについてお聞きします。
また、今後、特に取り組んでほしいことについてもお聞きします。
（「現状」と「今後」について、それぞれ1つだけ○）

○満足度が比較的高い施策としては「手話通訳者の養成」、「手話通訳者の設置促進」、「手話による県政情報等の発信」であった。不満度が比較的高い施策としては「聴覚障害等及びその保護者に対し手話を学習する機会の提供」、「手話通訳者の設置促進」、「手話通訳者等の派遣体制の整備」であった。

○優先度が比較的高い施策としては「手話通訳者の養成」、「手話通訳者の設置促進」、「手話による県政情報等の発信」であった。

回答	①現状							②今後						
	とても満足している	やや満足している	やや不満がある	非常に不満がある	わからない	無回答	計	最優先すべき	やや優先すべき	優先度はやや低い	優先度は低い	わからない	無回答	計
「手話推進の日（毎月第３水曜日）」の取組	11	32	21	7	128	25	224	71	53	14	11	54	21	224
	4.9%	14.3%	9.4%	3.1%	57.1%	11.2%	100.0%	31.7%	23.7%	6.3%	4.9%	24.1%	9.4%	100.0%
各種広報の実施	12	38	12	8	128	26	224	69	55	15	6	58	21	224
	5.4%	17.0%	5.4%	3.6%	57.1%	11.6%	100.0%	30.8%	24.6%	6.7%	2.7%	25.9%	9.4%	100.0%
企画イベントの開催	18	41	22	10	109	24	224	76	58	10	5	54	21	224
	8.0%	18.3%	9.8%	4.5%	48.7%	10.7%	100.0%	33.9%	25.9%	4.5%	2.2%	24.1%	9.4%	100.0%
手話を学習する機会の提供	15	36	19	9	121	24	224	85	47	12	5	55	20	224
	6.7%	16.1%	8.5%	4.0%	54.0%	10.7%	100.0%	37.9%	21.0%	5.4%	2.2%	24.6%	8.9%	100.0%
幼児、児童及び生徒に対する手話や聴覚障害者等に対する理解促進	14	25	15	9	129	32	224	91	43	3	7	49	31	224
	6.3%	11.2%	6.7%	4.0%	57.6%	14.3%	100.0%	40.6%	19.2%	1.3%	3.1%	21.9%	13.8%	100.0%
聴覚障害等及びその保護者に対し手話を学習する機会の提供	9	22	24	14	126	29	224	94	45	6	6	48	25	224
	4.0%	9.8%	10.7%	6.3%	56.3%	12.9%	100.0%	42.0%	20.1%	2.7%	2.7%	21.4%	11.2%	100.0%
手話通訳者の養成	27	33	21	8	102	33	224	90	57	6	1	43	27	224
	12.1%	14.7%	9.4%	3.6%	45.5%	14.7%	100.0%	40.2%	25.4%	2.7%	0.4%	19.2%	12.1%	100.0%
手話通訳者の資質向上	24	30	18	11	109	32	224	88	48	6	6	51	25	224
	10.7%	13.4%	8.0%	4.9%	48.7%	14.3%	100.0%	39.3%	21.4%	2.7%	2.7%	22.8%	11.2%	100.0%
手話通訳者指導者養成の推進	20	23	15	12	121	33	224	85	50	7	5	51	26	224
	8.9%	10.3%	6.7%	5.4%	54.0%	14.7%	100.0%	37.9%	22.3%	3.1%	2.2%	22.8%	11.6%	100.0%
手話通訳者の設置促進	26	35	27	13	95	28	224	101	49	5	0	45	24	224
	11.6%	15.6%	12.1%	5.8%	42.4%	12.5%	100.0%	45.1%	21.9%	2.2%	0.0%	20.1%	10.7%	100.0%
手話通訳者等の派遣体制の整備	21	25	23	13	116	26	224	92	46	6	2	53	25	224
	9.4%	11.2%	10.3%	5.8%	51.8%	11.6%	100.0%	41.1%	20.5%	2.7%	0.9%	23.7%	11.2%	100.0%
ろう学校内手話研修会の開催	19	28	16	9	124	28	224	94	42	10	1	51	26	224
	8.5%	12.5%	7.1%	4.0%	55.4%	12.5%	100.0%	42.0%	18.8%	4.5%	0.4%	22.8%	11.6%	100.0%
沖縄聴覚障害者情報センターの運営支援	24	22	19	11	122	26	224	79	50	9	3	60	23	224
	10.7%	9.8%	8.5%	4.9%	54.5%	11.6%	100.0%	35.3%	22.3%	4.0%	1.3%	26.8%	10.3%	100.0%
手話による県政情報等の発信	36	43	19	9	92	25	224	104	43	10	2	42	23	224
	16.1%	19.2%	8.5%	4.0%	41.1%	11.2%	100.0%	46.4%	19.2%	4.5%	0.9%	18.8%	10.3%	100.0%

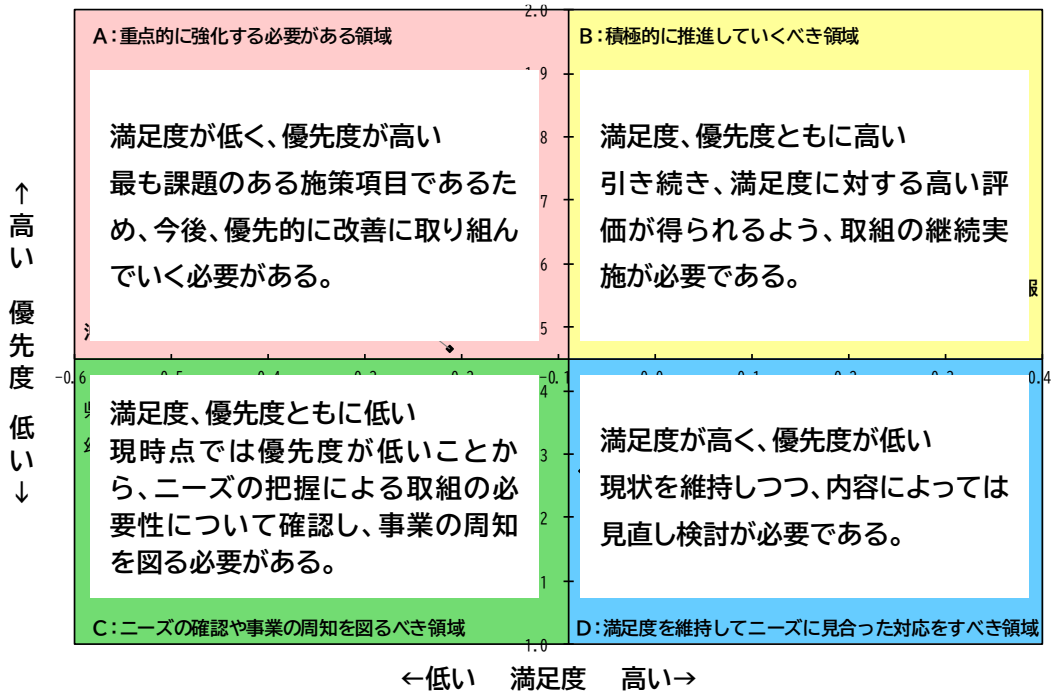
■【問23のポートフォリオ分析】

「第3期沖縄県手話推進計画」における14施策について、各施策の満足度と優先度を以下の4段階で得点をつけ、散布図で表現するポートフォリオ分析を行った。

満足度と優先度の点数表

現状（満足度）		今後（優先度）	
とても満足している	2点	最優先すべき	2点
やや満足している	1点	やや優先すべき	1点
やや不満がある	－1点	優先度はやや低い	－1点
非常に不満がある	－2点	優先度は低い	－2点
わからない	分析対象外	わからない	分析対象外

各領域の概要



■ポートフォリオ分析結果

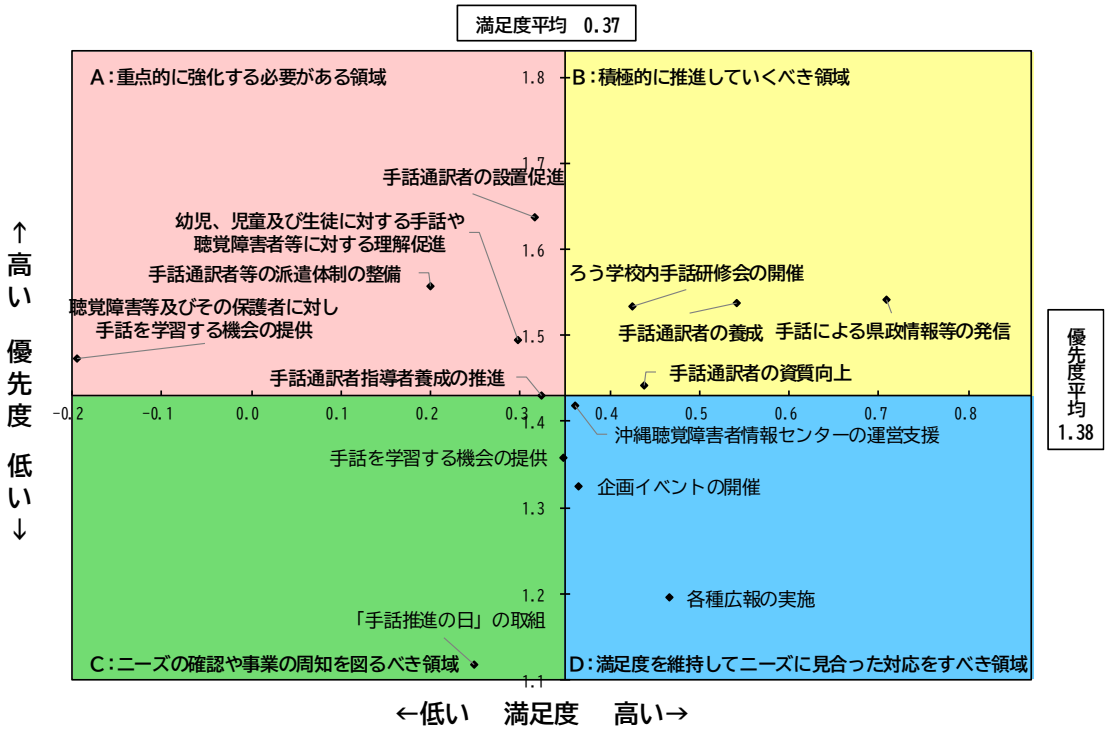
○ポートフォリオ分析における、領域 A：重点的に強化する必要がある施策としては、以下の5施策があげられる。

・幼児・児童及び生徒に対する手話や聴覚障害者等に対する理解促進
・聴覚障害等及びその保護者に対し手話を学習する機会の提供
・手話通訳者指導者養成の推進
・手話通訳者の設置促進
・手話通訳者等の派遣体制の整備

○ポートフォリオ分析における、領域 B：積極的に推進していくべき施策としては、以下の4施策があげられる。

・手話通訳者の養成　　・手話通訳者の資質向上
・ろう学校内手話研修会の開催　　・手話による県政情報等の発信

満足度と優先度の散布図



満足度と優先度の算定結果

領域	施策名	満足度	優先度
領域 A 重点的に強化する必要がある施策	**幼児、児童及び生徒に対する手話や聴覚障害者等に対する理解促進** （県内学校へ条例普及啓発パンフレットの配布や手話を活用している学校の取組の紹介）	0.32	1.44
	聴覚障害等及びその保護者に対し手話を学習する機会の提供 （聴覚障害児とその保護者に手話講習会等を実施）	-0.17	1.42
	手話通訳者指導者養成の推進 （手話通訳者指導者を全国手話研修センター等が実施する指導者養成研修等へ派遣する）	0.34	1.38
	手話通訳者の設置促進 （市町村に手話通訳者設置の取り組み事例について情報共有し、手話通訳者設置を促進する）	0.34	1.59
	手話通訳者等の派遣体制の整備 （意思疎通支援事業運営委員会や意思疎通支援担当者連絡会の開催、遠隔手話サービスの運営）	0.22	1.51
領域 B 積極的に推進していくべき施策	**手話通訳者の養成** （手話奉仕員を対象に「手話通訳者養成研修」を開催し、手話通訳に必要な手話語彙、手話表現等を習得した手話通訳者を養成する）	0.56	1.49
	手話通訳者の資質向上 （手話通訳者を対象に「手話通訳士養成ステップアップ研修」を開催し、手話通訳士資格取得を促進する）	0.46	1.39
	ろう学校内手話研修会の開催 （ろう学校教職員に対する手話研修と聴覚障害理解の向上を図る）	0.44	1.48
	手話による県政情報等の発信 （県政広報番組「うまんちゅひろば」や、知事会見への手話通訳者の配置）	0.73	1.49
領域 C ニーズの確認や事業の周知を図るべき施策	**「手話推進の日（毎月第3水曜日）」の取組** （県ホームページで手話表現を紹介し、県民の手話に対する関心と理解を深める取組）	0.27	1.07
	手話を学習する機会の提供 （県民向け手話講座の開催、県ホームページでの手話サークル活動状況の掲載）	0.37	1.31
領域 D 満足度を維持してニーズに見合った対応をすべき施策	**各種広報の実施** （条例の解説や手話表現を掲載したパンフレットの作成・配布）	0.49	1.14
	企画イベントの開催 （手話や要約筆記など、聴覚障害者等との交流することができる普及啓発イベントの開催）	0.38	1.28
	沖縄聴覚障害者情報センターの運営支援 （聴覚障害者への情報提供施設としての沖縄聴覚障害者情報センターの運営支援（相談支援、情報機器の貸出、動画による情報提供等））	0.38	1.37

12 沖縄県手話言語条例に関する質問

問24 本条例では、手話の普及に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図り、ろう者とろう者以外の者が共存することのできる地域社会を実現することを目的としています。手話に対する理解促進、手話を使用しやすい環境づくりを図るにあたって、必要だと感じることがあれば、ご自由にお書きください。

No.	ご意見・ご要望
1	学校現場に手話ができる人は少ないです。手話ができないのに難聴学級担任をしています。すごく不安で、児童にとってより良い支援ができていないと感じます。手話を学ぶ時間もありません。個々の先生方のやる気だけでは正直できません。もっと、学校現場に専門の方の配置をお願いしたいです。
2	「聞こえないこと」どういうものなのか体験の機会があまりないと思われるけど、せめて少しぐらいは関心を持ってほしい。社会では関心があまりにもなさすぎる!!「聞こえないこと」をもっとアピールしてほしい。ろう者をもっと出す機会を増やしてほしい!!
3	スーパー等、手話会話の出来る人が必要。
4	買い物のとき、レジ等に手話ができる人がほしい。
5	買い物等で困ることが多い。レジも難しい。
6	病院、免許センターなどに手話通訳が居るようにしてほしい。
7	一般の学校等でも簡単な手話を使ったりしてもらえるととても嬉しいです。
8	手話サークルや地元の聴覚障害協会で手話言語条例について学ぶ機会を設けることです。僕はあまり手話が難しいけど、簡単なものだけ少しわかります。最近、手話サークルに行っていないです。手話が苦手です。手話は少しできるし、筆談は半分できるし、口話も少しできるけどできな時もあります。口話はへたくそ、それより手話の方がいいと思います。口話とは手話と会話した方がいいと思います。
9	手話の普及には手話サークルをたくさん作って、ろう者と健聴者のふれあいの場を作ることです。
10	まだまだ聴覚障害者への理解は、他の障害と比べて低いと感じます。まずは聴覚障害への認知・理解を広めた方が良いのではないかと感じます。また、沖縄本島であれば手話の世界も広く、啓蒙活動も多いかと思いますが、離島だとそもそも手話をしている人が少ない、情報量もまだまだ全く不足している、コミュニティが狭い等々の課題が山積みです。ぜひ離島にも目を向けていただけますと幸いです。
11	手話通訳について、宮古島はろうあ者はいるがまだ進んでいない。社会などろうあ者に対して奉仕があれば幸いと思います。
12	久米島でももっと手話推進をしてほしい。
13	・ろう者の老人ホームが無い ・コミュニティーバス等がもっとほしい。(買い物、銀行等が不便) ・ニュース(知事の会見時)通訳者がいても知事をズームアップして通訳士が画面から消えてしまう ・通常のローカルニュースにも手話通訳がほしい
14	このアンケートでQRコードがあるのはびっくり。いろいろ配慮がなされているのを感じるが、昭和世代以上のろう学校出身の方々がついてこられるか…。彼らが全員QRコード使えてたらいいのにと思う。あと、届いてから〆切まで4日しかないぞ。いつもお疲れさまです。ありがとうございます。

15	警察署、病院、タクシー、バス、消防、役所にもっと手話通訳者を設置してほしい。
16	①手話通訳時にお洒落な服装は必要ないと思います。私たちが見やすい黒っぽい服装が見やすいです。 ②手話通訳の方の対応が横柄に思う時があります。 ③目が合ったときは無視せず挨拶くらいしてほしいです。 ④院内の受付前のカウンターにおられる手話通訳の方が肘をついて片手で足を組んで手話をされているところ（片方の手を痛めておられたのか分かりませんが）を見ました。あまり良い印象ではありませんでした。
17	ろう者とろう者以外の者が交流する機会を多くしてほしいです。
18	伊平屋でも手話のイベントをしてほしい。
19	手話通訳は会社の面接に行った時にだけです。
20	手話や手話通訳をもっと推進してほしい。
21	メディアでも（バラエティ等）積極的に取り上げてほしい。何よりもなぜ沖縄の番組に字幕が一切もないのはなぜ！？そこを焦点するべき！「沖縄の文化を大切に！」と言いながら、聞こえない方に対する沖縄の番組の字幕など文字の配慮や視覚的配慮がないのは非合理的ではないかと思う。沖縄方言についても全く音声や言い方についても触れる機会がないので、そこは県民としてとても悔しく、悲しく思う心でいっぱいです。
22	地域活動の中でやっぱり手話ができる人がいないと疎外感を覚えてしまう。その中で手話ができる人を媒介として、住民も手話であいさつしたい！と手話に興味を持つことができ、双方の歩み寄りがあり、楽しく過ごすことができた。その上でお互いの理解を深めることがこの手話言語条例の目的に適うのではないかと思う。
23	手話言語条例はろう者の手話を使う
24	災害時や有事の際、特に整備してほしいのが情報インフラです。ろう者の方は情報インフラについてどの程度整備されているのかとても分かりづらいです。結果や状況、整備状態（現状）を分かりやすくしたもの等、さらに透明性を図る必要があります。また手話サークル各団体と連携し、もっと活動を増やし、いつでも情報を提供してほしいです（行政との連携も）。離島についても「本島との交流がない、来てくれない」等の不満も聞いています。本島と離島が繋がれるようなろう者のイベント企画も考えてほしい。 特に急務すべき点は、沖縄県全体の「聴覚障害者災害救援　沖縄本部」設立と役員の配置（会員、非会員関係なく）、危機管理ができるろうの防災士の配備を求めたい。緊急時に流す内容や手話も、沖縄気象台やし白書と協力し合って流してほしい。 市役所の福祉課に災害時に必要なビブスなど用意してほしいと要求したが、「予算が…。仲間を作ってそこから出すのはどうですか？」とさじを投げられました。市役所の福祉もとい障害福祉課のりかいがとても低いので、ビブスの必要性や予算などについてももっと周知してほしい。（学ぶための研修など）
25	手話の普及を進めてほしい！
26	手話の普及を進めてほしい！
27	病院で手話通訳は無いと困ります。
28	手話を広めたい
29	ろう者も聞こえる人もお互いを理解し合い、安心してコミュニケーションが取れる社会になってほしいです。
30	社会参加する中、ろう者のことをもっとわかってもらいたい。生活、労働、医療、司法、教育など。手話だけでなく生活などの角が支障あることに対して理解を求める。

31	①役場に設置の手話通訳者がほかの業務を兼任して、聴者の対応を優先し、ろう者への対応が後回しになる状況があるのはおかしい。 ②今の設置通訳になってから、役場の外出する近隣への同行通訳が認められなくなったのはおかしい。15年前の時に設置通訳者は同行通訳を行っていた。 ③設置通訳者が一人なので、役場に行ったら通訳者は二人体制にしてほしい。
32	最近県内において、ある団体が手話を用いたエンターテイメント企画や過去に県内小中学校等での出前講座を実施していました。しかし、これらの取組は沖縄県聴覚障害者協会等への協力依頼もなく、県内在住の当事者（ろう者）が企画しない形で進められています。当事者やその地域コミュニティを置き去りにした活動は、私たちの言語である「手話」の本質的な理解を妨げ、軽視することに繋がりかねないと深く危惧しております。 また、地元メディアにおかれましても、手話やろう文化に対する本質的な理解が不十分のまま、表面的な印象のみで報道・記事化されているケースが見受けられ、残念に思います。 手話言語条例の理念を真に活かし、手話を守るためにも、推進や理解啓発をより一層取り組んでいただきたいです。
33	今後、市町村の役所に手話通訳者（福祉課）の配置が難しくなる（少なくなる）かと思う。（国からの）「電話リレーサービス」を使っていて、その中に電話相手と自分の間に手話通訳者（オンライン）が繋ぐサービスがある（スマホアプリ）。役所の福祉課に専用のタブレットもしくは本人のスマホ・タブレットで、いつでもどこでもリアルタイムで手話通訳者を出せるアプリがあると良いかなと思おう。使用は公共の場のみで、私用は無し（別の問題）。
34	病院、警察、交通機関、いろいろなお店で手話できる方がいれば望ましいです。
35	私たちは手話通訳活動をはじめとする様々な活動において、「聞こえない人の暮らしから学ぶ」ことを基本として取り組んでいます。沖縄県内ではろうあ者老人ホーム施設がほしいです。
36	もっと具体的にやることを示していかないと、ぼんやり終わる。「教育に手話を言語として取り入れる」等、こうなると良いね～だけではなく、できることを進めてほしい。
37	手話のサークルなど時間があわないので大変ですが…今動画で勉強してます。隙間時間にできるので助かってます。
38	最近は、手話に対する理解が高まってきていると思うので、今後も啓発活動は続けたほうが良いと思います。
39	わかりません
40	まず手話を学べる環境が少ないと思う。書籍やYouTubeなどの一方的な動画では学ぶのは難しい。実際に手話を日常のものとして使っている、ろう者から学ぶことが1番の学習だと思う。講習会の開催場所、日時も限られており、興味はあっても参加できない人も多いと感じる。
41	手話通訳者の養成や派遣場所の拡大に力を入れてほしい。
42	各学校にて、手話に関する講話や手話に触れる機会を作っていただけると、児童や学校の先生周りの方も手話に関する興味・関心が少しでも広がるのではないかなと思います。
43	学校において、去年から聴覚障がい児を担当することになったが、手話を習おうにもどこへ行けば良いかもわからず、独自での書籍やネットなどでの自己流での取得をしてきました。なので不安もあり手探りでの状態だったので、手話の勉強会などがあるといいなと思う。

44	学校の学習教材の内容に手話に関する内容をいれたほうが良いと思う。国語などの読み物に手話に関する話があると手話に関しての知る機会が増える。また、ろう学校などの学園祭で地域に宣伝するのもよいと思うが、ろう学校としては、対応が厳しいなら、やらなくてもよい。または、総合学習などでろうあ者の方と接する機会を作ると良い。ただ、学校も時数確保でろうあ者と接する機会が取りにくいという現状があるとは思う。
45	どのようにアクセスすればよいのかなど、情報がほとんどありません。
46	小学校の教諭ですが、手話を児童に教える講話（プログラム）があると福祉の学習になると思います。
47	近くに同級生のほご者が聾唖者であるが、家族でご近所づきあいをしている。手話がなくてもこちらの口形をみて話を読み取ってくれたり、こちらは、筆談でおこなっている。最近スマホの音声変換アプリなどを活用していている。聾唖者とわかっているかたなので、いいとおもうが、見た目ではわからないし、本人が知らせてくれないと気付けないので、もし、普段の生活の中で必要な方がいるのに気づける方法や当事者からの意思表示などももっと気軽にできる方法があれば教えてほしい。
48	自分自身も聴覚障害があり、作業療法士として医療現場で働いて2年目です。医療やリハビリテーションに関する勉強会に参加したいと思っても、手話通訳者が医学・専門用語に対応できるのか不安に感じ、参加を諦めてしまうことがあります。 また、地域では介護予防の取り組みが進められている一方で、ろう者が健康講座や介護予防教室などに参加できてるか。医学的な内容や生活習慣病など十分に理解できてるか？医療従事者として気になっているところです。
49	ろう者がいなくても、ろう者について考え、手話に触れる授業を行うと普及しやすくなるかもしれない。
50	よくわからない
51	手話を体験したりろう者と交流したりする機会を広げていくことが必要と感じた。
52	沖縄県といえば、離島含むでしょうか？　何故離島の方、情報が低いなんですが…
53	手話推進日の画像は写真だとわかりづらいので動画が好ましい 県ホームページに限らずインスタなどでの公開だとより浸透し深まりやすいかと思います。手話通訳等派遣を依頼したものの通訳者のレベルが低くて理解にしにくい面もあり通訳者の資質向上を図るための取り組みを実践してほしいです
54	小学生のうちから授業の中で手話を取り入れたらいいと思う。
55	まわりの人の理解や配慮が必要
56	NHKばかりでなく、OTVなど他の番組でもニュースで手話をやれば、見る機会、覚える機会が増えると思います。
57	難聴学級担任で、手話を使う必要がある担任への研修会（勤務時間内に出張扱いで）を実施してほしい。
58	聴覚に障がいがある人たちは日常生活で、遠慮がちなのでもっと自分の権利が主張できるような社会になって欲しいと思う。まずはお互いの文化を主張し合うだけではなく、お互いの文化の違いを理解できるようイベントを通してもっと身近に開催してほしい。
59	理解するために様々な活動をしている事を大まかに知っていますがろう者にも活動や取り組みなどの情報提供をしてほしい。ろう者との繋がりがあまりないため情報を得にくい。
60	案が、思いうかびません。
61	ろう者との関わりがない人にとって手話は身近なコミュニケーションの手段ではない。そのような人でも手話を使う機会があれば手話に対する理解促進に繋がると思う。手話を使った歌があると楽しみながら手話を使えるのかもしれないと思います。

62	テレビのローカルニュースの取材記事の一部でもいいので、県政広報のように手話を入れると、より手話が身近に感じると思う。NHKの手話ニュースのように。
63	条例に関することや、簡単な手話・指文字などを、駅や電車内の広告、地域の公園や公共施設のエレベーター内など、日常的に目にする場所に掲示してはどうでしょうか。 普段から目にする機会が増えることで、手話や条例について知るきっかけになり、より身近に感じてもらえると思います。
64	ろう者参加者が少ない！
65	●ディナーテーブル症候群を防止・軽減するためには、沖縄のテレビや政見放送等に手話や字幕が付いて欲しい。 ●各大学、専門学校、中高学校等で日本手話を『言語科目？』として開講する必要だと思います。 ●第33回全国障害者スポーツ大会in沖縄に向けての手話学習会が必要
66	沖縄県手話言語条例の理念を実現するためには、手話の普及や理解促進にとどまらず、ろう者が主体となって政策の立案・実施・評価に参画できる仕組みを整えることが重要だと考えます。 まず、沖縄ろう学校の生徒が、手話を通して十分に学び、自分の考えや気持ちを表現し、将来の可能性を広げられるよう、学習権の保障を一層充実させていただきたいです。手話で学べる環境の整備、手話による教材や情報の充実、ろう者の文化や歴史に触れる機会の確保に加え、ろう者当事者の経験や知見を教育現場に生かすことを要望します。 また、一般のろう者が、医療、福祉、行政、就労、防災、地域活動など、生活のあらゆる場面で必要な情報を手話で得られ、自分らしく安心して豊かに暮らせる環境づくりが必要です。手話通訳の利用機会の拡充だけでなく、日常的に手話でコミュニケーションができる地域づくりを進め、ろう者が社会の一員として主体的に活動し、意思決定に参加できる仕組みを整えていただきたいです。 さらに、難聴の子どもやその保護者に対して、早期から正確で十分な情報提供と継続的な支援を行うことが重要です。保護者が手話やろう者の生活・文化について学び、子どもの言語発達やコミュニケーションの選択について安心して相談できる機会を確保していただきたいです。その際、ろう者当事者と出会い、実際の経験や生き方に触れられる場を設けることで、子どもと保護者が将来の可能性を具体的に描けるよう支援することを望みます。 これらの施策を実効性のあるものにするためには、ろう者を単に支援の対象として捉えるのではなく、地域社会をともにつくる主体として位置づけることが不可欠です。ろう者当事者を、教育、相談支援、人材育成、啓発活動、行政の施策検討などに積極的に登用し、当事者の声が政策に反映される仕組みを整えていただきたいです。また、当事者団体との継続的な協議の場を設け、施策の実施状況や効果を当事者の視点から検証することも求めます。 沖縄県が、ろう者の言語や文化を尊重し、ろう者自身の力と経験を生かすことで、ろう者、難聴の子ども、その保護者をはじめ、誰もが安心して学び、働き、暮らせる地域社会を実現することを強く要望します。 手話は、ろう者にとって大切な言語であり、自分の気持ちや考えを伝え、人とつながり、社会生活を送るために欠かせないものです。そのため、手話やろう者の文化・尊厳を傷つけるような行為が疑われる場合には、放置せず、適切に対応する必要があると考えます。 「藤乃」というデフリンクスの団体について、手話を大切にしていないのではないかという懸念や、さまざまな噂があると聞いています。ただし、噂だけで判断するのではなく、何が起きているのかを公正な立場で確認することが重要です。

	このような問題への対応を、ろう者や当事者団体とともに、沖縄県も責任をもって実態を確認し、必要に応じて関係者から話を聞き、事実に基づいて対応する仕組みを整えていただきたいです。聞こえる人には気づきにくい問題もあるため、ろう者の声を丁寧に聞き、手話言語やろう者の文化、尊厳が守られているかという視点から検証することが必要です。 手話の普及は、単に手話を使う人や団体を増やすことだけではありません。手話を言語として尊重し、ろう者が安心して手話を使い、自分らしく暮らせる環境を守ることも大切です。沖縄県には、当事者団体と連携をとりつつ、第三者性と公平性を確保しながら事実確認を行い、問題が確認された場合には改善を促すなど、責任ある対応を強く要望します。
67	手話通訳士や設置手話通訳者の正規職員雇用、どこに行っても手話が使える人が臨時ではなく正規雇用であること。会社や公共施設には必ず手話ができる人が必須、研修参加や学習できる環境。
68	コンサートに手話通訳派遣が出来るようにお願いしたいです。聴こえる、聴こえない関係なく共存できる環境作りをお願いしたい
69	これまで市職員の課長らが手話学習会を作る発想もなく、参加もありませんでした。手話に対する理解が薄く、手話を少しでも定期的に市職員が学ぶ機会を作れば、市民への貢献や対応に繋がる情報になりうるかもしれないのに、周囲の好意度任せな環境になっています。市職員の意識が薄いのなら、民間会社は頑張って情報保障はしてるのに役所や県庁はおざなりです。憲法はなんのためにあるのでしょうか。手話ができない人達が代わりに、ほかのツールで手話を提供できる予算も国や県が準備して、市町村に行き届く体制も必要だと思います。手話通訳者達の給料も低すぎます。たくさん税金を取っているのなら、マイノリティな市民にもしっかり還元できる予算も作ってほしい。
70	乳幼児期・小学児童期等、日々の生活の中、学校・教育現場、保育現場の中で一つの言語として「手話」に慣れ親しむ取組が行われていくと良いと思う。保育現場等で「英語あそび」と英語に親しむ取組が行われているが、同様に「手話あそび」等の取組を積極的に行うことで、乳幼児期から「手話」を一つの言語として認知する、慣れ親しむことができるのではないかと思う。また、聴覚障害者のロールモデルとして学生・社会人となった聴覚障害者と気軽に話し合える場の設置等があれば、聴覚障害児・保護者も先を見直すことのできる安心感等へと繋げることができると思う。取組への努力をお願いいたします。
71	手話通訳者の数が増えてほしい。イベントなどに通訳をつけてほしい。